

五感を刺激！？ Google Classroom を用いて漢詩の魅力を見直し！

埼玉県立松山高等学校 教諭 浅見和寿
 キーワード：高校、2年生、漢文、協調学習、反転学習

実践の概要

ICTの活用によって、五感（特に聴覚・視覚・触覚）を刺激し漢詩を鑑賞する。その際、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れるため、反転学習ができるよう「GoogleClassroom」を導入し、協調学習（知識構成型ジグソー法）を実施した。多角的に漢詩を鑑賞する。

1. 目的・目標

(1) 授業のねらい

一年次に、漢詩の修辭等は一通り勉強したが、漢詩はその部分だけ理解すれば良いという考え方をもち、詩を多角的視点から鑑賞しようという点が乏しくなっていることが課題であった。そこで今回漢詩を鑑賞するにあたって、教科書の漢字の羅列を眺めるだけでなく、ICTを活用することで教科書だけでは感じることができない漢詩の魅力を見直しさせる。

(2) 単元の目標

A「漢詩を耳で味わう」中国語で漢詩を聞き、漢詩本来のリズムや抑揚・区切れ等を学び表現できる。B「漢詩を目で味わう」（「廬山観瀑図」）漢詩題材にした絵画や実際の写真を見ることで、滝の大きさや、李白の立ち位置・目線、またその勢い等特徴を感じ表現できる。C「漢詩を頭で味わう」（作者・表現方法）漢詩を作成した作者について知る。「三千尺」「九天」のような比喩に気付く。

2. 実践内容

2.1 反転学習（自宅）

今回の授業はICTを活用し、「多角的に漢詩を鑑賞する」という点を重視した。そのため、知識構成型ジグソー法を用いて、3つのエキスパートグループに分けた。

エキスパートAでは、漢詩を耳で味わう。（中国語で漢詩のリズムや抑揚を味わう）エキスパートBでは、漢詩を目で味わう。（「廬山観瀑図」を見て漢詩の内容や表現を理解する）エキスパートCでは、漢詩を頭で味わう。（作者・作品、詩の表現について理解し詩を鑑賞する）各エキスパートには「マッピングシート」をつけており、自由に創造を膨らませた。

2.2 協調学習（教室）

各エキスパートグループで集まり、その資料から鑑賞できるポイントを話し合わせた（写真1）。エキスパートA

では、中国語の音声自身のスマートフォンで聞き、漢詩本来のリズムや抑揚・区切れ等を、実際の音を耳で感じることで、より深く理解できた。また今回の詩は七言絶句であるので、各句の意味のまとまりが2字・2字・3字で構成されているという所を音声から聞き取らせた。言葉で説明するよりも、実感として生徒の記憶に残り、生徒自身も主体的に何度も音声を繰り返し聞いていた。

また、エキスパートBでは、この漢詩を題材にした「廬山観瀑図」をカラーの画像で見ながら、滝の大きさや、李白の立ち位置・目線、またその勢い等、視覚に刺激を与え、当時の李白が感じたであろう姿を想像させた。



写真1 エキスパート活動

ICTを利用しなくては数多くの絵画をカラーで見ることができなかった。ICT利用ならではの。

そして、エキスパートCでは、漢詩を作成した作者について知るために、様々な解釈の資料を読み漁った。李白がどのような人物で、どんな表現方法を好んでいたのか、李白の描きたかったものを想像し、また疑問点があればすぐその場で、スマートフォンで調べることも可能にした。

その後、各々の資料を持って、異なった資料を持つ新たなグループを形成し（写真2）、漢詩の鑑賞を行った。

マッピング等でグループの意見をまとめ、グループの代表が、その資料を「OfficeLens」に取り込み「GoogleClassroom」にアップロードする。アップロードされた資料をプロジェクタでスクリーンに映しながら、「『望廬山瀑布』の詩にはどのような特徴があるか。」

について発表を行った（写真3）。



写真2 ジグソー活動



写真3 クロストーク活動

3. 成果

実践後、生徒に取ったアンケートでは、「この授業をまた行いたい」という項目が90%以上となり、生徒も十分に満足した授業だったのではないかと感じている。

表1 生徒の授業前と授業後の記述の変化

生徒	授業前	授業後
1	李白の滝の雄大さ	七言絶句で、二句・四句で韻を踏んでいる。また二句目と三句目で視点が変わる。日本語と中国語では、詩の発音が大きく異なる。奇想天外な着想・李白の体験が我々にも体験できる。
2	実際に存在する香炉峯の雲煙がかかる幻想的な姿や、それとは対して自分で想像している銀河のような滝が具体的に伝わってくる。	本文や作者の特徴だけでは掴めない本文の中国語発音や絵画を通しての学習でさらに情報が集まった。作者が香炉峯の煙や瀑布の流れに感動し、その気持ちを詩にしたというもの。
3	三千尺というのは千メートルであり、そのような存在しない滝を詩に書くのが李白の特徴の一つであると言える。	李白は、技術や化学が発達していないころに、色々なことを想像し興味を持っていたと考えられる。昔だから、想像力が豊かであるとか、ダイナミックすぎると、言われていたが、今につながる人が多いので根拠を持ってダイナミックな表現を使っているのが特徴だと思った。

また、授業前と後で同じ問を考えさせたところ、表1のような変化も見られ、授業の内容が浸透していることがうかがえる。生徒の話し合いの中で、「李白って一年生の時にも習ったよね？その時の詩ってどういうのだったけ？」等既有知識を自分たちで引き出し、調べていたことは、非常に良い学習であった。調べるツールが身近にあり、ICTを利用して良い授業形態だったからこそ生まれたものだと考えている。

今回は、「教えない授業」を心がけたつもりである。そのため、エキスパート活動も何か特別に問をたてることはなく、与えられた資料から生徒自身が問を考え、課題について考えていくという流れであった。マッピングを使って、各々がゴールにたどりつくよう設定したが、そこがゴールなのかどうか生徒自身が迷ってしまった部分もあった。ゴールについて各々のゴールをよしとする方向性を示してあげればよかったと感じている。一年次に学習した漢詩の修辭についてはすぐに確認していたので既有知識の見積もりはある程度想定したものであった。資料の内容やワークシートの形式については、今回の課題の設定からすると問題はなかったように感じている。しかし、マッピングの使い方に問題があった。生徒は、授業でマッピングについて勉強はしているものの、その使い方に多少問題があったと考える。マッピングしてから文章を考えていく流れで考えていたが、その逆になってしまった班も多かった。私の指示不足を反省している。

4. 今後に向けて

以上のように、教師の予想を超えて生徒が深い学びに達している状況を見ると、更にICTを活用し、生徒の可能性をどんどん引き出していきたいと考えている。今後実施したい取組は2つある。1つ目は写真や画像だけでなく上手くイメージができない有職故実などを、VR（バーチャリアリティ）等を使用して理解を深めさせることである。平安時代の町並みや服装等を再現させ、実際に自分がそこにいるかのような状況を作りあげること、「古典世界を経験する」ことができるのではないかと考えている。

もう一つは、学校の垣根を越えて学習をするということである。本校は男子校のため、多様な価値観が生まれにくい状況もあるかもしれない。今回のような漢詩の鑑賞も女子生徒がいたり、異なった年齢の生徒と話し合うことができればもっと幅が広がるかもしれない。異なった文化や経験を持っている生徒同士でオンライン授業を展開してみたい。

5. 謝辞

本授業を実施するにあたり、東京大学 Coref の方々をはじめ、埼玉県教育委員会、埼玉県総合教育センターの方々、本校教員に重要な唆を賜りました。厚く御礼を申し上げ、感謝の意を表します。

【本時の学習内容】	学習活動	生徒活動	指導上の留意点
●指導目標/様々な情報を基に既有知識と結びつけたり、他者と話し合うことにより、多角的に漢詩の鑑賞する力を身につけさせる。	配布されたワークシートに取り組む	自分の担当したエキスパート活動について、マッピングを使用し、自分の考えをまとめておく。	マッピングの使い方について、事前に理解できていない生徒への対応をする。
●評価/対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書こうとしている。【関心・意欲・態度】古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方感じ方、考え方を豊かにすること。【読む能力】書くことにおける言語運用が、個人や社会の中で果たしている役割（思考想像したことを伝達する）について理解している。【知識理解】	「望廬山瀑布」の詩にはどのような特徴があるか。様々な角度から鑑賞をした情報を共有し、皆で表現していく。	特徴はどのような所にあるのかを理解し、それが一つにまとまらなかったとしても、鑑賞の仕方が身につくことが望ましい。	一つの情報だけではなく、様々な情報を基に鑑賞ができるよう、机間指導しながら、適宜アドバイスをしていく。
【指導略案】	漢詩の修辭をしつかりと理解し、内容を把握する。	鑑賞した上で、文法事項を理解したい。	解釈が間違っていた所等、適切に対応し理解を深めてさせる。
●単元指導計画（全体時間3時間） (1)「望廬山瀑布」の鑑賞（個人）（1時間） (2)「望廬山瀑布」の鑑賞（集団）（ジグソー法）（1時間） (3)「望廬山瀑布」の修辭の理解（1時間）			
●本時の目標と展開 平成29年11月 児童数40名 「望廬山瀑布」の詩にはどのような特徴があるか。様々な角度から鑑賞をした情報を共有し、皆で表現していく。（文章・マッピング）			

高等学校

高等学校